

学 園 だ よ り

# 太 白 山

(平成30年5月発行)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立2丁目4-1

TEL : 022-245-0333

FAX : 022-245-0515

<http://www.pref.miyagi.jp/sawarabi/>

学園ホームページもご覧ください

## 新年度挨拶

園 長 杉山 謙治

平成30年度、さわらび学園では9名、分教室でも7名の新しい先生方をお迎えし、男児11名、女児4人の15名でスタートしました。新しい先生方と児童が交流する恒例の「お花見子ども会」も桜の開花が早まりお花見が心配されましたが、遅咲きの桜に助け



られ楽しんでひととを過ぎることが出来ました。今年度も学園分教室の先生方と力をあわせ入所児童の支援を進めていきたいと思えます。今後とも関係各位、保護者の皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

さて、児童がより安全に快適に過ごせるように学園内の整備を進めております。園内の通行に支障を来していた約80本の松枯れですが昨年12月から始まりすでに40本ほど伐採し残りは今年度中に終わる予定です。

老朽化していたプールの改修工事が

4月に始まり6月中旬の完成を予定しております。今年は、野球やバドミントンの練習で火照った身体を思う存分プールでクールダウンができそうです。また、すみれ(女子)寮へのプレハブ設置も計画中です。

処遇面では、昨年度から取り組んでいる児童への「さん・くん」付けの結果、お互いの言葉遣いが優しくなった等の効果があることから今後も継続して取り組んでいきたいと思えます。児童の言葉遣いが優くなり、相手を思いやる気持ちが育まれることを願っています。

## 新年度挨拶

分教室教頭 根本 光一

この度、分教室教頭に着任した根本光一です。よろしくお願いいたします。

分教室で勤務するようになって三週間が経ち、一日の流れや児童の様子についても分かるようになってきました。まだまだ戸惑うことも多く、新鮮な毎日を過ごしています。これまでの教員生活では、生徒指導を担当することが多く、何人もの生徒が、この「さわらび学園」「旗立分

教室」でお世話になってきました。

そのため面談などで何度も分教室や学園に訪れる機会がありました。生徒との面談で毎回驚かされたのが、原籍校で生活していた時とは違って変わって穏やかな表情を見せ、礼儀正しく話をする姿でした。

分教室の職員からその裏にある学園での規則正しい日課のことや学園の先生方の親身かつ厳しい指導や分教室でのきめ細やかな学習・生活指導について話を聞いて、「なるほど」という思いを持っていました。

そして今、分教室で勤務することになり、分教室の職員や学園の先生方が一人一人の児童に対して想像以上に深く向き合っている姿を目の当たりにして改めて驚いています。そして、一人一人と徹底的に向き合い、授業や生活指導を行っていくということはまさに「教育の原点」であるということをおの三週間の中で改めて実感しています。

児童たちが家庭、地域に復帰した後もしっかりと前を向いて人生を歩めるよう、私も初心に立ち返り、一人一人の児童たちと精一杯向き合っていきたいと思えます。

## 新入学生作文

「高校に入学して」

児童 Y

私の高校に入学してからできた目標は二つあります。一つ目は、早く退園することです。そのためには、高校という環境に慣れ、自分の意思を明確にする必要があると思います。

二つ目は、高校生活と学園生活を両立させる事です。

また、入学してから頑張っている事は、二つあります。一つ目は、自分から声をかけたり、積極的に友人作りを行っていることです。二つ目は、遅刻しないように早く起き、欠時オーバーにならないよう、きちんと通っている事です。

これからも、休まずに高校に通い、無事卒業できるように頑張ります。



## 「居心地」を作る仕事

指導班長 田中 佳二

日々子ども達と過ごしていて思うことは子ども達の気持ちはどう動いているのかということです。楽しいだとかうれしいだとか、何も考えていないだとかも含めて、「平常心」でいられる雰囲気や空間を維持していくことは結構難しいことです。つまらない、やりたくない、あいつ頭にくる、コソコソするといったネガティブな気持ちになる雰囲気はいつもやってくるし、今まで居心地のよかった雰囲気有些細なことで一変することもあります。そういった生活の空気感をどう安定させるかが職員の担当大切な役割だと感じています。子ども達がのんびり過ごせていることで、本当に向き合えるのだろうし、ゆとりを自覚できず、今入所している子ども達の中には、安心することが苦手でいつも不安を作りだし、自分を追い詰めていく傾向の子どもがいます。失敗しても、うまくいなくても、またやり直したいと思える気持ちは、やっぱりゆとりが必要だし、日頃の「居心地」が大切であると思います。やはり「居心地」作りは私達の大切な仕事だと思っています。

## 広瀬寮より

広瀬寮長 遠藤 敏博

退園していく仲間、新しく来た仲間、職員も同様で、別れと出会いの季節の中、新しい年度がスタートしました。現在我が広瀬寮は小学4年生から高校1年生までの6名の児童と、同じく6名の職員で生活しています。

昼間部と夜間部それぞれの高校生活を送る児童、分教室に登校する児童、次のステップの為に年長児日課を行う児童と、一つの寮で何と4パターンの生活が並行しており、多少の混乱は有るものの、児童も職員もバタバタしながらも楽しく生活しています。

そんな生活を送りながら、みんなで知恵を出し合って考えた年間目標は「インスローガンが「思いやりを持つ」でサブスローガンが「基本的なルールを守る」「素直な受け答え」「挨拶・返事をしっかりとる」です。

言うは易く、実行は難しいかもしれませんが、でもあきらめず、明るく・楽しく・ケジメも意識して児童と職員が一緒に頑張っていけば何とかなると信じています。

太白山を読んでいる皆様も応援を宜しくお願いいたします

## 今後の行事予定(6月まで)

・5月8日：田植え(分教室の授業の一環として行います)

・5月24日：科学館学習

・5月30日：写生会

・6月9日～11日：中総体(女子がバドミントン競技に参加予定です)

・6月27日～29日：東北・北海道地区少年野球大会(於：岩手県)

## 編集後記

今年度もよろしく申し上げます。本誌を通して、学園生活のいろいろな場面や行事、職員の声などを皆様にお伝えして行ければと思っております。本文にもありましたとおり、本学園は皆様のご支援があつてこそ、子ども達が安心して生活できる場所です。今年度もなにとぞさわらび学園、そして子ども達をあたたくご見守っていただければと思います。

